

サマーレビュー2017 調書

1 部局名 (課名)	土木部 (道路企画課)
2 協議事項 (案件名)	次期みちづくり計画（計画年次：H29～H38）の策定について
3 背景・現状	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少や少子高齢社会の進展、老朽化する道路施設、発生が懸念される南海トラフ巨大地震や頻発する局地的豪雨など、道路を取り巻く環境が変化。 ・道路の観点で産業や観光の発展を支え、長く持続可能な都市の形成を図るため、既存道路を“かしこくつかう”、真に必要な道路を“つくる”ことが必要。 ・多くの道路施設を有し、計画的に維持・修繕等を行い、大規模自然災害や、痛ましい交通事故から市民を守り、安全・安心で住みよい街を“まもる”の観点で考える必要性。 ・上記を踏まえ、次期みちづくり計画（H29～H38）を策定し、安全・安心な暮らしを支え、地域の活力・魅力をはぐくむ「みちづくり」を強力に推進する。
4 検討経過・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「次期みちづくり計画」では、「拠点間を移動しやすい（人・産業・観光）」、「地域のにぎわい・魅力」、「安全・安心（交通安全）」、「災害に強いみち」、「道路施設の適切な維持管理」の5つの視点による「みちづくりの基本方針（案）」を策定し、7/28に開催した策定委員会では、概ね了承を得たことから、9月末頃にパブリックコメントを実施する予定でいる。 ・また、今後の道路事業費は、道路整備費（“つくる”）から保全費（“まもる”交通安全含む）にシフトしていく中で、必要事業費は増加に転じている状況であるが、選択と集中により、事業を見極め、進めていく必要がある。
5-1 方向性の提案	<ol style="list-style-type: none"> ①三遠南信自動車道（現道改良区間）の事業費は、確実な財源の確保のため、個別事業化に向けて、国との調整を進め、要望活動を強化する。 ②道路整備事業は、早期に事業効果が見込まれる継続事業を優先的に整備し、道路保全事業は、優先度の高い事業を重点的に実施する等、一時的な事業費の増大を抑え、平準化を図る。 ③保全費の内、舗装修繕費（表面的修繕）は、市単独事業となるが、H28年度に総務省が創設した公共施設等適正管理推進事業債を活用し、財源を確保した上で進めていきたい。

<p>5-2 論点</p> <p>方向性の決定 に向け議論 する事項</p>	<p>①三遠南信自動車道（現道改良区間）の個別補助化についての国との調整。</p> <p>②道路事業費全体の抑制と平準化。</p> <p>③公共施設等適正管理推進事業債の活用。</p>	
<p>6 結果</p>	<p>■提案どおり進める</p> <p>□提案内容を一部見直して進める</p> <p>□再度、調査研究等を行い検討</p> <p>□その他</p>	<p>具体的内容</p> <p>➤ 実施に当たっては、全体の投資的経費の中で柔軟に対応すること。</p>
<p>7 その他</p>		